

toVO トウゴ
PLUS

www.tovo2011.com

SEASON 3



NO. 027

20140611

あおもりの100家族、わたしたちのこれから。





インタビュー

今号のご家族 ▶ 阿保 孝方 さん・史子 さん・健祥 くん・ころろ ちゃん

撮影場所 ▶ 自由ヶ丘 (青森市)

●2011年3月11日のこと、憶えていますか？

▶孝方さん「その日はたまたま午後休みを取ってたんですよ。それで、史子と当時2才10ヵ月だったころを連れて、オープンしたばかりのスーパーに買い物に行っただけです。でも、凄い混み様でしたのでそのまま素通りして、ラーメン屋に行ってラーメン食べたり、目当てとは別のスーパーで晩酌用のつまみ買ったりして帰ってきたんです。そして、トイレに入っている時でした…グラグラときたのは。」

▶史子さん「ころろは帰りの車の中から既に寝てたんだけど、揺れてる最中も起きなかったよね。まずはころろをテーブルの下にサッと入れて…あとはテレビとか押さえてた。すぐに停電もしたね。」

▶健祥くん「僕は学校で授業中だった。ん？帰りの会だったかな？揺れて、停電して…机の下に隠れてた。揺れが収まってから、玄関前にみんな集合して、集団下校するところだった。」

▶孝方さん「そこに私が迎えに行っただけです。他の父兄も迎えに来てましたね。空からは濡れ雪が降ってきて、通りの信号機はみんな消えてました。」

●その日の夜はどう過ごしましたか？

▶史子さん「おかず買って良かったよね。電気は点かないけど、ガスは大丈夫だったんで、カップラーメンもいけたし…。」

▶孝方さん「ろうそく灯して、ラジオつけて…停電で暖房がなかったんで、みんなで暖め合って寝ました。」

▶健祥くん「揺れてる時はそんなに怖くはなかったけど、夜はちよつと怖かった。」

▶孝方さん「翌日は車の中で暖をとったりしながら復旧を待っていました。」

▶健祥くん「学校の方まで様子見に行ったりしたよね。」

▶孝方さん「そうそう。ガソリンスタンドへ続く車の列が長くて凄かったなあ。ウチは徒歩通勤なんで、ガソリンに関しては平気でした。」

●震災後、何か変わりましたか？

▶孝方さん「特に変化はないんですけど、今後は、いつでもああいいう大きな出来事(震災)は起こりうると、家族みんなが分かったんじゃないかな。偶然にも、震災の半年前に息子の空手の試合で気仙沼に行ってたんです。気仙沼の人たちが歓迎して下さったのを憶えてて…。バスで通った辺りが壊滅的被害を受けているのをテレビで見たり、会場だったK-WAVE(気仙沼市総合体育館)が避難所になっていたり…。我々も、道場へ支援物資を送ったり、青森市民体育館に物資を届けたりもしました。今でもふとした時に当時のことを思い出しますね。」

●10年後のイメージは？

▶史子さん「みんな元気で変わらないうえ。」

▶孝方さん「そうだね。みんなこのまま元気なら、それでいいな。」 ▶健祥くん「その頃も青森にいたい。青森が好きだから！」

定期購読のご協力をお願い致します

1年間の定期購読を承ります。1,500円(送料・寄付含)/1年間(12号)です。ご希望の方は、「郵便番号・ご住所・お名前」を明記の上、メール(info@tovo2011.com)にてお申し込みください。

編集後記

いつも一緒にいつも仲良しな阿保さんファミリー。一家揃って音楽の趣味も似通っていて、親子でライブにも出掛けるほど。「家族」「絆」「愛」そんなキーワードが具現化されたようだ。実はどこにでもあるような家族の風景でもあるが、その儚さもまた我々は知っている。大切にしたいと思う。愛という絆が繋ぐ大きな家族を…なんて青臭い歌のようなことを思う、蒼い夕暮れでございました。【なるみしう】

東日本大地震・津波復興チャリティー

tovo トヴォ

2011年6月～2014年4月30日まで

¥2,365,140

を寄付することができました。ご協力に感謝いたします。

【tovo/トヴォ】は、2011年3月11日の東日本大震災によって、親を失った子どもたちを、青森から支援するプロジェクトです。チャリティーグッズを制作・販売し、その経費を除いた全ての収益を、長期的な子どもたちの心のケアの為、あしなが育英会へ継続的に寄付し、青森から「あなたがたのそばにいつもいますよ」と伝え続けます。ご支援・ご協力を宜しくお願いいたします。



今号のご家族▶阿保 孝方さん・史子さん・健祥くん・ころちゃん
撮影場所▶自由ヶ丘(青森市)

【インタビュー】

●2011年3月11日のこと、憶えていますか？

▶孝方さん「その日はたまたま午後休みを取ってたんですよ。それで、史子と当時2才10ヵ月だったころを連れて、オープンしたばかりのスーパーに買い物に行ったんです。でも、凄い混み様でしたのでそのまま素通りして、ラーメン屋に行ってラーメン食べたり、目当てとは別のスーパーで晩酌用のつまみ買ったりして帰ってきたんです。そして、トイレに入っている時でした...グラグラッときたのは。」

▶史子さん「ころは帰りの車の中から既に寝てたんだけど、揺れてる最中も起きなかったよね。まずはころをテーブルの下にサッと入れて...あとはテレビとか押さえてた。すぐに停電もしたね。」

▶健祥くん「僕は学校で授業中だった。ん？帰りの会だったかな？揺れて、停電して...机の下に隠れてた。揺れが収まってから、玄関前にみんな集合して、集団下校するところだった。」

▶孝方さん「そこに私が迎えに行ったんです。他の父兄も迎えに来てましたね。空からは濡れ雪が降ってきて、通りの信号機はみんな消えてました。」

●その日の夜はどう過ごしましたか？

▶史子さん「おかず買って良かったよね。電気は点かないけど、ガスは大丈夫だったんで、カップラーメンもいけたし...。」

▶孝方さん「ろうそく灯して、ラジオつけて...停電で暖房がなかったんで、みんなで暖め合って寝ました。」

▶健祥くん「揺れてる時はそんなに怖くなかったけど、夜はちょっと怖かった。」

▶孝方さん「翌日は車の中で暖をとったりしながら復旧を待ちました。」

▶健祥くん「学校の方まで様子見に行ったりしたよね。」

▶孝方さん「そうそう。ガソリンスタンドへ続く車の列が長くて凄かったなあ。ウチは徒歩通勤なんで、ガソリンに関しては平気でした。」

●震災後、何か変わりましたか？

▶孝方さん「特に変化はないのですが、今後は、いつでもああいう大きな出来事(震災)は起こりうると、家族みんなが分かったんじゃないかな。偶然にも、震災の半年前に息子の空手の試合で気仙沼に行ってたんです。気仙沼の人たちが歓迎して下さったのを憶えてて...。バスで通った辺りが壊滅的被害を受けているのをテレビで見たり、会場だったK-WAVE (気仙沼市総合体育館)

が避難所になっていたり…。我々も、道場へ支援物資を送ったり、青森市民体育館に物資を届けたりもしました。今でもふとした時に当時のことを思い出しますね。」

●10年後のイメージは？

▶史子さん「みんな元気で変わらずいたいね。」

▶孝方さん「そうだね。みんなこのまま元気なら、それでいいな。」

▶健祥くん「その頃も青森にいたい。青森が好きだから！」

【編集後記】

いつも一緒にいつも仲良しな阿保さんファミリー。一家揃って音楽の趣味も似通っていて、親子でライブにも出掛けるほど。「家族」「絆」「愛」そんなキーワードが具現化されたようだ。実はどこにでもあるような家族の風景でもあるが、その儚さもまた我々は知っている。大切にしたいと思う。愛という絆が繋ぐ大きな家族を…なんて青臭い歌のようなことを思う、蒼い夕暮れでございました。【なるみしう】

【寄付総額】

2011年6月～2014年4月30日まで、「¥2,365,140」を寄付することができました。ご協力に感謝いたします。